

競技別実施要項【バドミントン】

1 種目

学校対抗戦 男子・女子 個人対抗戦 男子・女子

2 日程・会場（会場は予定）

令和6年6月1日（土）・2日（日）・8日（土）・9日（日）

種目	日程	会場	
		男子	女子
学校対抗戦	6月1日（土）	広島城北高等学校、 広島国際学院高等学校	広島経済大学石田記念体育館
	6月2日（日）	広島城北高等学校	広島国際学院高等学校
個人対抗戦	6月8日（土）	呉三津田高校	呉宮原高校
	6月9日（日）		

3 参加資格・参加制限

(1) 「第77回広島県高等学校総合体育大会要項 2参加資格」に準じる。

【第77回広島県高等学校総合体育大会実施要項 2参加資格】

- (1)選手は、広島県高等学校体育連盟（以下、県高体連）規約第5条に規定する学校に所属する生徒で本競技実施要項により、大会の参加資格を得たものに限る。
- (2)年齢は、平成17年4月2日以降に生まれたものとする。
ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での同一競技出場は1回限りとする。
- (3)チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5)転校・転籍後6ヶ月未満の者は、同一競技への参加を認めない（外国人留学生もこれに準じる）。
ただし、一家転住などやむを得ない場合は、県高体連会長の許可があればこの限りでない。
- (6)出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。
- (7)各競技専門部の特質により、別に定める参加資格をもうけることがある。
- (8)参加資格の特例による参加については、広島県高等学校総合体育大会開催準備要項のとおりとする。

(2) 学校対抗戦のチーム編成は1校1チーム選手5～7名、マネージャー1名以内とする。ただし、マネージャーは選手を兼ねられない。

(3) 監督・コーチ・選手・マネージャーは、2024年度(公財)日本バドミントン協会に会員登録を完了した者とする。

4 シャトル

(1) 2024年度(公財)日本バドミントン協会第一種検定合格球（3番）を使用する。

(2) 受付時のシャトルの本部提出は、今回については行わない。

ただし、学校対抗戦は1試合につき5個、個人対抗戦は1試合につき2個を本部で用意するが、それ以上は双方の持ち寄りとする。

5 参加上の注意

(1) 出場選手の大会期間中の健康管理及び生徒指導については各学校長の責任において遺漏のないよう処置すること。特に、健康管理、食生活及び交通安全等の指導については十分留意すること。

(2) 競技場においては会場責任者の指示に従うとともに、競技場を常に清浄に保ち、会場を汚さないこと。

(3) 各自、原則として「健康保険証」を持参すること。

(4) 「広島県高等学校体育連盟主催大会等における個人情報及び肖像権に関する取扱について」は、参加申込書の提出をもって、承諾をいただいたものとして対応する。

6 競技及び採点方法

- (1) 2024年度(公財)日本バドミントン協会競技規則・同大会運営規程・同公認審判員規程による。
- (2) 学校対抗戦の競技は2複3単(複1・複2・単1・単2・単3)で行い、いずれかが3勝した時点で試合を打ち切る。なお、単1が複を兼ねることはできない。
- (3) トーナメント法による。

7 参加申込

- (1) 申込先 〒736-0003 安芸郡海田町曾田1-5 TEL 082-823-3401
広島国際学院高等学校 呉 洗星 宛
- (2) 申込期限 令和6年4月25日(木)必着

8 組み合わせ

- (1) 日 時 : 令和6年5月7日(火) 13:30より
- (2) 会 場 : 広島市東区民文化センター大会議室(広島市東区東蟹屋町10-31)
- (3) 参加者 : 各校監督

9 備考

- (1) 選手の服装は上衣下衣とも(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。
- (2) 選手はゼッケンを背面につけ、校名及び姓を明示すること。
ゼッケンは白地に黒または紺で記入する。
- (3) 本大会は中国高校選手権大会および全国高校総体の県予選を兼ねる。
- (4) 個人対抗戦は「県高校バドミントン個人選手権大会」として、中国高校選手権大会及び全国高校総体の県予選を兼ねて6月8日(土)、9日(日)に行い、要項は別途通知する。
- (5) 個人対抗戦の申し込みは各地区委員長が一括して行う。
- (6) 学校対抗戦の申し込みは各校ごととし、競技委員長宛に申し込むこと。(個人対抗戦要項を参照)申し込みには選手5~7名を登録すること。(オーダーは当日試合ごとに提出)なお、登録選手の変更があるときは、6月1日(土)の受付時に変更届を大会本部へ提出すること。
- (7) 敗者審判制で運営しているため、試合に負けた場合は必ず審判を務めること。

